

建築人

2022
10

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.700





建築人

2022.10 No.700

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「三栄建設鉄構事業本部新事務所」2020年

第65回 大阪建築コンクール大阪府知事賞部門大阪府知事賞 受賞作品
設計：竹中工務店
施工：竹中工務店
撮影：母倉知樹

鉄骨ファブリケーターの事務所の建替え計画である。立体的なジオメトリを採用し、様々な職能の人々が集い、つながりを持ちながら、せめぎあう関係性をそのまま空間化した。骨格となる複雑な鉄骨架構は最新のデジタル技術と職人のクラフトマンシップの融合によって実現した。

2 大阪こちエエ

4 Gallery 建築作品紹介

「なでしこ芸術文化センター」

設計：久米設計

施工：鹿島建設

「ういるそば戸隠本店」

設計：石橋清志建築設計事務所

施工：藤木工務店

「西国街道の家」

設計：アルファ建築設計事務所

施工：巨勢工務店

7 IT促進委員会 会員向けアンケート報告

8 動静レポート

9 Topics

10 インフォメーション・事業案内

12 Close-up Osaka

14 記憶の建築

「福島県教育会館」1956年

「民衆の建築」を求めている時代に / 松隈 洋

大阪こちエエ

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

なにわの夏の風物詩がようやく戻ってきた。

今回は、大阪市内を東西に流れる淀川の河川敷で行われる「なにわ淀川花火大会」を取り上げたい。

始まりは1989年にまで遡る。まちの活性化を願い結成された「平成淀川花火大会運営委員会」が運営を担ってきた。ただし、地域のボランティアスタッフが周辺企業・団体・商店など地域住民の寄付のみで財政をまかない、企画・運営・実行を自らが手掛けるという花火大会だ。

2005年の第17回の花火大会からは名称を「なにわ淀川花火大会」と改めた。新型コロナウイルスの蔓延により2020年と2021年は中止となったが、今年は3年ぶりに開催された。

花火という一瞬の輝きに、人々は何を思い何を感じるのか。言えることは人々をこの淀川に惹きつけ、また来年も平和で安全にこの花火大会を観たいということだ。

建築人 No.700 2022年10月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報部門

編集 建築情報部門『建築人』編集部

部門長：荻窪伸彦（編集人代表）

委員長：松下典央

編集人：飯田英二 梅田武宏 笠井志保 河合哲夫

茂籠一之 大松俊祐 橋本頼幸 牧野隆義

三谷勝章 武藤優哉 若江直生

事務局：山本茂樹 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

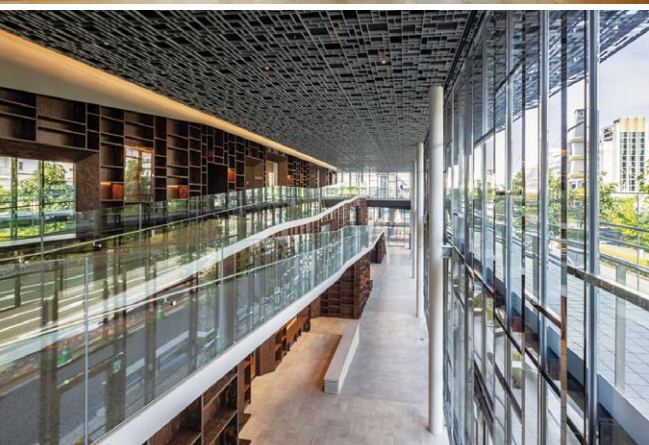
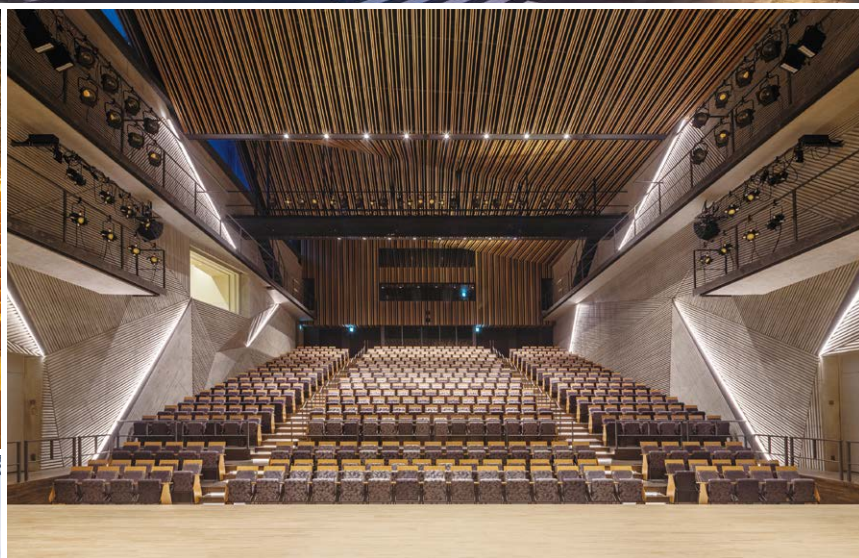
令和4年10月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



神戸市西区に整備されたホールと図書館の複合文化施設。高度成長期に整備された西神中央地区周辺一帯のリノベーションの一環としてブランド力向上を目的として計画された。神戸らしいランドマークとなる外観に加え、駅前の賑わいをつくる為、駅側にイベントができる広場をつくり、ホールと繋ぐことも可能とした。施設前の歩道橋を改築し、施設外部側に設置したブリッジにより駅と施設と街を繋げると共に、ブリッジ内部側共用部には知と芸術の本棚壁となるアートウォールを設け、ホールと図書館の融合を図っている。

所在地：神戸市西区
用途：劇場・図書館
竣工：2022.06
構造規模：RC造一部S造
地上4階建
敷地面積：4,000㎡
建築面積：2,793.43㎡
延床面積：6,172.33㎡
写真：川澄・小林研二
写真事務所



戸隠は日本三大そばの一つとされる戸隠そばで有名な地である。ういるそば戸隠本店は戸隠神社中社からおよそ6km南、長野市街地から戸隠神社に続く幹線道路沿いに位置する。整備された駐車場をもつこの大型店舗は、周辺環境に配慮した配置計画がなされ外観のデザインと相俟って控えめな佇まいを呈している。伝統的な切妻の大屋根を採用し深い軒に回廊を設けることで南北両面から店舗へのアプローチを可能にしている。内部空間は切妻の屋根裏空間を最大限に活かした開放感のある無柱空間を実現している。三方の開口部からは豊かな自然の木々や移ろいゆく日の光を感じることができる心地よい空間になっている。

所在地：長野市戸隠豊岡
用途：店舗
竣工：2022.07
構造規模：鉄骨造
地上1階
敷地面積：2,859.14㎡
建築面積：326.16㎡
延床面積：274.11㎡
写真：松村芳治



かつて西国諸大名の参勤交代で利用されていた西国街道に面し、市街化が進む現代にあってもかつての街道筋の面影を残す落ち着いた街並みに本住宅は在る。時の経過にあわせ少しずつ形を変えながら長年、家主の家系を支えてきた建物も昨今の大きな自然災害を受け安全性の確保が難しくなり建て替える経緯となった。しかし、守ってきた情緒を失うのは口惜しく、機能性は現代住宅のレベルに昇華しつつも外観においては鬼瓦の保存、蟲籠窓の形状再現、漆喰壁などにこだわり今までの容姿を継承する住まい造りを建築主と一緒に取り組んだ。室内も吹き抜けのあるLDKなど近代化を図る一方、先代から受け継いだ襖や欄間などを利用し、かつての住居の様式や面影を残した住まい造りを実現させた。

所在地：大阪府箕面市
用途：専用住宅
竣工：2022.04
構造規模：木造
地上2階
敷地面積：498.65㎡
建築面積：268.68㎡
延床面積：314.04㎡
写真：上口善孝

IT促進委員会 会員向けアンケート報告

今年6月に実施しました、建築士会会員向けアンケート結果をご報告します。



◆ 会員向けアンケート実施概要

目的：IT促進を通じたDXにより、サービスの拡充、収益の向上、生産性の向上、会員の増加を狙う

狙い：アンケート後今後のIT活用施策に生かす サービス拡充、生産性向上、会員増加

対象：（公社）大阪府建築士会会員

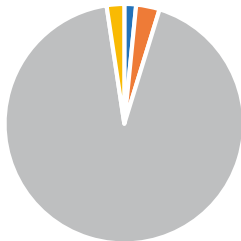
方法：媒体、WEB、紙併用 メール送付、ホームページ掲載等

スケジュール：2022年5月下旬発送、6月10日締め切り

回答数：127

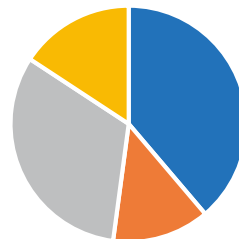
本会のホームページを見る頻度

- 毎日
- 週1回程度
- 必要な時
- その他



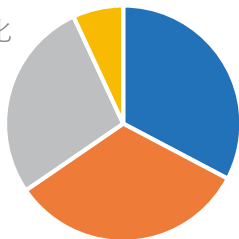
本会のIT化が遅れていると思う点

- WEB講習会が少ない
- 個人情報保護・セキュリティ
- SNS等による情報発信
- その他



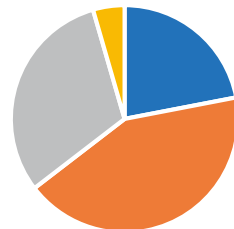
IT化すべき活動・取組み

- 総会等のオンライン化
- 会員のIT化
- 情報提供
- その他



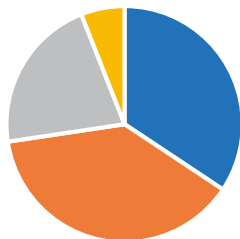
IT化に期待すること

- 情報ネットワーク
- 迅速な情報提供
- 情報交換のコストダウン
- その他



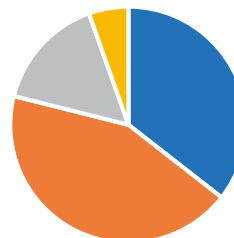
IT化への課題

- 会員の人材育成
- IT活動の可視化
- 事例の蓄積
- その他



ITツールとして望むもの

- SNS
- 会員専用ホームページ
- 建築人の内容充実
- その他



IT、建築士会活動に関するご意見抜粋

委員会活動に興味があるが敷居が高く感じる／ITの専門家を交えてIT化を進めてほしい／士会会員のみでIT化を進めることはセキュリティの危険を感じる／セミナー、講習会を後日リポートして見たい／情報を簡単に検索できるようにしてほしい／賛助会員が一般会員向けに情報発信できるように／レクリエーションでIT活用倶楽部／IT化はデータの蓄積と閲覧のしやすさに特化すべき／今でもかなりIT化されていると思う／Googleカレンダーを利用したイベント告知／ドンドン進めればよい／果敢に挑戦してください／建築士がアイデアを出すポジションでないと先はない／ITの基礎情報の提供／事務局業務の効率化／タイムスケジュールをもったIT戦略の立案

その他、多くのご意見、コメントをいただきました。ご協力ありがとうございました。

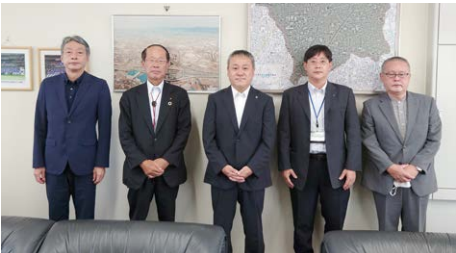
IT促進委員会の活動内容のご紹介と 委員の募集

IT促進委員会では、士会活動におけるオンライン研修、講演会の実施サポートや、情報セキュリティの検討、オンライン決済、SNS運用ルールと導入検討、Microsoft Teams導入サポートなど、大阪府建築士会のITにおける様々な検討と普及活動を行っています。

ITやWEBに興味のある方、一緒に取り組んでみたい方は、まずはIT促進委員会へお試し出席してみませんか？委員会を毎月開催していますので、ご出席を希望の方は、大阪府建築士会事務局へご連絡ください。

会長動静

- 8/26 門真市長面談、大東市長面談
- 8/30 大阪府収用委員会
- 8/31～ 9/ 3 北海道建築士会・全道大会
- 9/ 5 守口市市長面談、大阪府収用委員会
- 9/ 6 大阪府収用委員会打合せ
- 9/ 8 大阪府収用委員会打合せ
- 9/ 9 全日本不動産協会 70 周年式典
- 9/12 大阪府収用委員会
- 9/14 大阪都市景観建築賞審査会
- 9/15 大阪府収用委員会、4 団体会議
- 9/16 四条畷市長面談、運営会議
- 9/21 理事会
- 9/22 連合会・教育本事業委員会
- 9/26 東大阪市長面談



左より濱田副会長、岡本会長、宮本一孝門真市長、古澤智昭門真市副市長、津村委員



左より村田大亮大東市都市整備部総括次長、南野徹大東市都市整備部長、津村委員、濱田副会長、岡本会長、東阪浩一大東市長、山添専務理事



左より岡本会長、西端勝樹守口市市長、田中副会長、分田委員



左より田中理事、濱田副会長、岡本会長、東修平四条畷市長、足立聡四条畷市都市整備部次長、阪上浩一四条畷市建設管理課長



左より竹田理事、岡本会長、野田義和東大阪市長

9 月度 理事会報告

日時 9 月 21 日（水）16：00 ～ 18：00
場所 本会会議室
出席 理事 41/48 名 監事 2/2 名
名誉会長他 10 名

【会長の活動・要請等】

- ・府内市町村の首長面談は順調に進み、本会活動の理解を得られている旨を報告しました。
- ・全日本不動産協会大阪府本部とは万博コンペの共催、70 周年記念式典に招かれるなど友好関係を深めました。
- ・建築士試験申込みや法定講習のオンライン化が進み、本会事業全般において増収対策を図るよう指示しました。
- ・本会の活動規模は縮小の傾向にあり、機構改組を念頭にして、委員会の統廃合や委員構成の見直し、事務局の縮小、デジタルツールによる業務効率化などが必須としました。

(1) 入退会の承認

(人)	8 月	入会	退会等
正 会 員	2,376	2	6
準 会 員	34	0	0
特準会員	25	0	0
賛助会員	139	1	0
計	2,574	3	6

(2) 会計報告

(円)	8 月計	累計
収入	3,518,742	76,703,955
支出	11,413,534	58,743,114
差引	△ 7,894,792	17,960,841

上表の当期経常増減明細を承認しました。

(3) 第 66 回大阪建築コンクール審査員
建築表彰部門から、大阪建築コンクール審査委員長に橋爪紳也氏（大阪公立大）、委員に植野甚一氏（大阪府）、荻原廣高氏（神戸芸工大）、満田衛資氏（京都工繊大）、山本麻子氏（大阪工大）の推薦があり、これを承認しました。

(4) 豊中市マンション管理適正化推進事業
アドバイザー派遣の協定

豊中市域のマンション管理組合等が適正な管理の支援に際し、本会は市からの依頼を受けて相談内容に則したアドバイザーを派遣協力する協定を承認しました。

(5) 大阪府ヘリテージマネージャー協議会の
規程・細則の改定

標記規程・細則の改定案は、6 月理事会で指摘を受けた本会と協議会の関係性や重要事項の位置づけなど種々の項目を指摘通りに修正して、規程・細則ともに承認しました。

(6) LINE 運用規程のための役員協力
本会活動の情報発信のツールとして、LINE を活用するための運用規程を作成する前段として、役員を対象に試行運用することを承認しました。

二級建築士設計製図試験を実施

本会は、9 月 11 日に二級建築士設計製図試験を「保育所（木造）」の課題で、大阪では本会が運営を担って実施しました。

▽受験者数 () 内は昨年数

	大阪	全国
二級	879 (898)	10,797 (11,450)

木造の新時代の提案！「トラス構造工場見学」

日程：令和4年8月27日（土）

会場：丹波篠山市民センター2F催事場＋(株)岡本銘木店丹波篠山工場

参加者：22名

芳村隆史（社会貢献部門長（業務支援））



木造新時代と言われ、非住宅の中大規模木造建築物が社会から見直されています。2025年大阪・関西万博会場のシンボルとなる大屋根は、世界最大級の木造建築物となる見通しであり、また木材利用促進法が公共施設だけではなく民間施設にも拡大され、SDGsやカーボンニュートラルの時代の流れに強く後押しされています。この流れを受け、事業部門賛助委員会では、(株)岡本銘木店様の協力を得て、同社の木造大スパン構造工場棟と木造壁式倉庫棟の新築工事の説明会と現場見学会を開催いたしました。

説明会では、意匠設計、構造設計、高耐力金物、使用木材について専門家から説明をお聞きました。

意匠設計：(株)飯野建築工房 飯野高明様
非住宅の木造建築物の特殊性について鉄骨造等と比較し、体験談を含めて建築基準法の解釈、工期、コスト、SDGsの観点から大変

優位な場合がある。

構造設計：(株)木構造デザイン 松岡忠生様
木造建築物を構造設計する場合、製材・非製材、材種、集成材の強度想定など、構造設計者判断だけでなく、施主・プレカット工場・接合金物会社などと初期の段階から調整する必要があり、さらに構造計算データとプレカットCADデータが同一データを使うことによりプレカット工場と構造計算が食い違うことを防いでいる。

高耐力金物：(株)タツミ 角田和裕様

木造金物メーカーの立場から計画初期から構造のコントロールが、コストをコントロールできること、コストをコントロールするには、①住宅用サイズの木材を基本とする。②オープン工法を基本とする。③既製品の金物を基本とする。④プレカットを基本とする。

使用木材：住友林業(株) 藤川光洋様

構造材料供給の立場から、住友林業(株)の取

り組みの説明、建築コストは氷山の一角であり、水面下の運用コストである光熱費や維持費等まで考えておくことが大切である。

現場見学会では、片流屋根自立フレーム架構による40m×70mのプレカット工場棟とLVLトラスと2×4壁式構造による18m×36mの木造倉庫棟を同時に見学しました。(株)岡本銘木店様、関係者様の皆様のご協力とご配慮により大変貴重な体験をさせていただきました。ここにお礼申し上げます。



建築相談室から（66） 面接相談から

橋本頼幸（建築相談委員会幹事）

先月に続いて面接相談で受けた相談をご紹介します。面接相談は、主に電話相談で申込を受け付け、メールまたはFAXにて正式な申込を受け付けてからの実施になります。

自社物件が消防法違反

20年以上前に鉄骨3階建て（一部スキップフロア）の建物を購入。基礎又は地盤に不良があったようで、阪神大震災で不同沈下をした。その部分を増築して現在も使用しているが、増築は手続きを行っていないかった。増築部の外壁を不燃材料でないポリカーボネートの波板を用いたが、消防検査で是正の指導があった。その対応はどうしたら良いか？という相談。面接相談では、外壁を不燃材料にすることを前提として消防に相談に行ってください、とアドバイスしています。

昔に設計した建物の不具合

電話相談や面接相談には時に建築士からの相談もあります。

本会会員建築士からの相談。別のリフォーム工事の際に、浴室の排水が正しく枦に流れていないことが判明した。在来浴室の基礎コンクリート下で排水管が破損して地中に浸透しているようである。25年以上前に設計した建物ではあるが、なんとか解決策を見いだしたい。という相談。面接相談では、次回構造担当者も交えて面接相談を行い、一緒に考えていくことでまとめています。

長屋切り離し後の漏水

木造長屋で店舗を営んでおり、隣戸が解体切り離し工事を行った。その際、取合い部分の納まりが悪く、雨漏れが発生。かなりの被害が出たが、隣戸所有者や施工業者は取り合ってくれない、という相談。この相談には、隣戸所有者や施工業者だけではなく、施工者の工事保険会社、相談者が手配した雨漏れ調査会社など関係者が多く、互いに複雑に意見が対立しており、それらの関係

者や意見の対立を交通整理することから進めるようにアドバイスをしています。

建築士の役割

建築士会の相談には、最初の相談のように消防の立入検査で是正を指示された、行政の指導課の指導が入ったが対応の仕方がわからない等といった相談も少なくありません。違法建築であることがわかっている所有者もいる一方で、知らず知らずのうちに違法になっている場合もあります。こういった建物の相談に正しい知識と技術で対応できるのも建築士の重要な役割です。

二番目の相談のように第三者の建築士が技術的な立場で相談や解決手法の提案をすることも建築士ができることのひとつです。最後の相談のように、複雑に絡んだ糸をほどこうに様々な情報や思い・意見を整理していき解決に導くのも建築士だからこそできることではないでしょうか？

建築士会からのお知らせ

本会主催の講習会等では座席の離隔距離確保等の新型コロナ感染防止対策を行います。受講者におかれましてもマスク着用、手指のアルコール消毒等のご協力をお願いします。
 感染状況によっては延期、中止となる場合がありますので、最新情報は本会HPでご確認ください。本会以外の事業は主催者にお問い合わせください。

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。
 不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。
 令和3年6月1日より、広域緊急交通路沿道ブロック塀等耐震化促進事業（補助金）における耐震評価機関となりました。
 スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞご利用ください。
 （業務内容）
 耐震診断報告書の審査、評価
 耐震補強計画案の審査、評価 等
 （対象建築物）
 公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。
 （会員特典）
 申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10％割引があります。

大阪府知事指定講習
 2022年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会【一般診断法】
 10/12・12/14 CPD各5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。（本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。）
 日程 ①10/12（水）、②12/14（水）
 時間 10：00～15：50
 会場 大阪府建築健保会館6階ホール
 最寄駅 大阪メトロ「谷町四丁目」下車
 定員 各40名（定員になり次第締切）
 受講料 会員5,000円 会員外9,000円
 テキスト代 7,300円
 （2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法）
 ※受講料及びテキスト代金は、事前にお振込願います。その際振込手数料もご負担願います。

既存住宅状況調査技術者講習
 新規講習10/27 CPD5単位
 更新講習2/22 CPD2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみに認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。なお、2019年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。
 ▼新規講習（DVD）
 日時 10/27（木） 9：30～17：00
 会場 本会会議室
 定員 20名（定員に達し次第締切）
 受講料 WEB申込21,450円
 郵送申込22,000円
 ▼更新講習（DVD）
 日時 2/22（水） 13：30～16：50
 会場 本会会議室
 定員 20名（定員に達し次第締切）
 受講料 WEB申込17,000円
 郵送申込17,600円
 ▼申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

令和4年度監理技術者講習
 （監理技術者以外の方も受講可能）
 11/9、1/20、2/17、3/16 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講ください。
 日時 11/9（木）、1/20（金）、2/17（金）、3/16（木）
 時間 8：55～17：00
 会場 本会会議室
 定員 各回20名（定員に達し次第締切）
 受講料 WEB申込み9,500円
 郵送申込み10,000円
 申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015/2015-07-28-2.html>

令和4年度建築士定期講習
 1/19、2/7、3/2 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成31年度・令和元年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。
 ▼対面講義
 日程・会場・定員
 ※2/7（火） 大阪YMCA会館 100名
 ▼DVD講義
 日程・会場・定員
 1/19（木）大阪府建築健保会館 50名

※3/2（木） 大阪府建築健保会館 50名
 時間 9：15～17：00（各講習日共）
 受講料 12,980円（消費税含。事前振込）
 申込方法
 申込用紙を建築技術教育普及センターHPからダウンロードしてください。（平成31年度・令和元年度受講者には、同センターから直接申込書を郵送しています。）
 ご記入後、大阪府建築士会事務局又は大阪府建築士事務所協会事務局へ持参していただくか、簡易書留にて郵送してください。
 受付場所（送付場所）
 ※印の日程 大阪府建築士会事務局
 ※印以外の日程 大阪府建築士事務所協会事務局
 注）各回定員に達し次第、受付を終了します。
 ▼建築技術教育普及センターHP
<https://www.jaeic.or.jp/koshuannai/teiki-koshu/kteiki/kt-koshujisshi2021.html>

令和4年度 大阪府ヘリテージマネージャースキルアップ講習（全6日間）
 CPD1日4単位（予定）

本講習は、歴史文化遺産を発見し、文化財建造物や登録文化財を始め、歴史的建造物等の活用と保存を推進し、まちづくりに活かす能力を持った人材「ヘリテージマネージャー」のさらなるスキルアップをすることを目的に行う講習会です。動画講習も含めて全6日間の講座（講義単位数は合計24単位）で主に保存活用、調査や修復技術などを学びます。
 講師・会場他は調整中。
 定員 各回40名（申込先着順）
 受講料（各回）
 本会会員および大阪府ヘリテージマネージャー協議会会員2,500円
 会員外3,500円
 大阪府ヘリテージマネージャーで、すべての講習を受講された方には修了証書を授与予定です。
 10月より受付開始予定。申込は本会ホームページからWEB申込をお願いします。
 ※詳細は本会ホームページをご覧ください。

第65回大阪建築コンクール
 受賞者講演会＋トークセッション
 10/7 CPD2単位

大阪建築コンクールは、建築士と社会との関わりを通じて建築作品を評価し、そのすぐれた実績をたたえ、建築作品の設計者を表彰するものです。第65回を迎えた今回、大阪府知事賞および渡辺節賞の受賞者による講演会と審査委員とのトークセッションを企画しました。受賞作品についてはもちろん、建築に対するそれぞれの思いを語っていただきます。また、受賞作品のパネル展示も行います。
 日時 10/7（金） 18：30～20：40
 会場 大阪工業大学梅田キャンパス203
 大阪市北区茶屋町1-45
 参加費 無料（申込不要）

第8回 国際茶楼 JICA 関西訪問
 Vol.2
 「いま我々にできること～海外に目を向けて」
 10/29 CPD2単位

日本は今や国内のみを見ていては経済活動・技術発展や向上、人的ネットワークの構築等は考えられない状況です。また組織においても高齢化が進み、人的活用として海外に目を向けることは重要です。このような時にJICAの活動に目を向け我々の取組めることを改めて考えればと思います。
 プログラム：昼食・展示見学
 ：講演1 JICAについて
 ：講演2 ネパール地震後の現状報告 他
 ：人と未来防災センター見学（自由参加）

☆JICA関西食堂で大好評の日替りエスニック料理等を楽しみましょう。
 日時 10/29（土） 12：00～15：00
 集合場所 JR灘駅 11：45
 会場 JICA関西と周辺
 定員 25名（申込先着順）
 参加費 会員3,000円 会員外3,500円
 （JICA関西食堂昼食代含）
 学生・大阪府建築士会新入会員
 （2020年度以降入会）無料
 （昼食代は実費）
 懇親会 場所：三宮 会費：4,000円（予定）
 （コロナ禍により中止する場合があります。）

武庫川女子大学 甲子園会館
 見学会
 ～フランクロイドライトの意思が生き続ける建築の保存～
 10/21 CPD2単位（予定）

遠藤新の設計である甲子園会館（旧甲子園ホテル）は左右両翼の全体構成から装飾的な細部に至るまで、フランク・ロイド・ライトの意匠を思わせるその全貌を完全な姿で残し、登録有形文化財に登録されています。今回はこの施設を見学し、歴史的建築の保存について考え、今後の設計活動にお役立てください。
 日時 10/21（金） 14：00～16：00
 会場 武庫川女子大学甲子園会館
 受講料 建築士会会員2,500円
 後援団体会員3,500円
 一般4,500円

神戸八社巡り パート2
 11/5 CPD2単位（予定）

シニアサロン委員会と国際委員会の共同企画で2019年に実施しました神戸八社巡りの続きです。今回は伊藤博文が初代兵庫県知事を務めた県庁舎が復元された「兵庫の津ミュージアム」を見学します。そこをスタート地点として七宮神社から楠正成を祀る湊川神社を参拝して八宮神社（六宮神社も含

祀)、五宮神社を巡ります。
日時 11/5 (土) 13:00～17:00
集合場所 JR神戸駅中央口 12:30
定員 30名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 一般1,500円
学生・本会新入会員
(2020年度以降入会) 無料
懇親会 神戸駅周辺にて5,000円程度

茶室見学とお点前体験

～さかい利晶の杜～

11/12 CPD3単位

茶室シリーズ第2弾
千利休生誕の地「堺」で復元された茶室見
学、茶道三千家指導のもとお点前体験を通
して、茶の文化に親しんでいただきます。
日時 11/12 (土) 13:00～16:00
会場 さかい利晶の杜
参加費 会員2,000円、会員外2,500円
(展示観覧料・茶室見学・お点前体
験費用含む)
定員 30名

聖母女学院(現香里ヌヴェール学院)
登録有形文化財 1997年登録
食堂開設記念 講演会と見学会
青年委員会、ヘリテージ委員会
11/13 CPD2単位(予定)

1932年、アントニン・レーモンド設計の聖母
女学院。その中にある雨天体操場を食堂に
コンバージョンした建物(ルルドホール)が完
成しました。この食堂の開設記念として、講
演会と見学会を開催します。当日は食堂の
設計者及び施工者による講演会と、校内の
案内を行います。
日時 11月13日(日) 13:00～15:30
(受付12:30～)
会場 ルルドホール(旧雨天体操場)
参加費 会員1,000円 会員外1,000円
学生500円
定員 60名

最近の法令改正の動き
～建築物省エネ法・建築基準法～
11/14～11/27 CPD3単位(予定)

本講習会では建築物省エネ法及び建築基
準法における平成30年以後の改正の動きを
おさらいしつつ、今後示される改正政令等の
概要についてご紹介します。
また、この改正の動きとは別に令和3年12月
に起きた大阪市北区ビル火災を踏まえた建
築基準法の改正も既に行われています。今
後の防火・避難対策等に関する検討会報告
書の内容も織り交ぜながら、今後の制度改
正の動きについてもご紹介します。
日時 11/14 (月) 10:00～11/27 (日) 終日
開催方法 Microsoft TeamsによるWEB講習
受講料 建築士会会員1,500円
後援団体会員2,500円
一般3,500円

神戸ウォーカー

神戸における異国のたび KOBEを巡りて世界を知る

11/19 CPD2単位(予定)

今回は主に世界四大宗教の一つであるイス
ラム教で日本最古の神戸モスク教会の見学
や日本からブラジルを始め各南米等に移住
した方たちの資料がある移住ミュージアム
を訪れ、そこでは館内の方に各展示の説明
等を頂く予定です。もちろん、他の宗教の建
築物も含めてのウォーキング見学になりま
す。本見学が、あらためて、神戸と世界との繋
がりを感じられる機会になれば幸いです。
日時 11/19 (土) 13:00～17:00
集合場所 JR三ノ宮駅西改札口出口
12:45

定員 15名(申込先着順)
参加費 建築士会会員1,500円
会員外2,000円
学生・大阪府建築士会新入会員
(2020年度以降入会)500円
懇親会 場所 三宮 会費 6,000円
(トルコ料理飲み放題 予定)

脱炭素社会に向けて SDGsの取り組みと実践

11/25 CPD3単位(予定)

2015年に国連が掲げた開発目標である
SDGsは、発表から7年目を迎え、2030年に
向けて、今年度は実行すべき年として佳境を
迎えている。
そこで、SDGsに関して、建築士会を始めとす
る建築団体における取り組みや、全国の動
向などに精通され、現在(公社)日本建築士
会連合会 環境部会部会長であり、脱炭素
推進会議議長をつとめられている中村勉氏
を講師に迎え、これまでのSDGsの動向を学
び、これから何に取り組めばよいのかを考
える講習会を開催いたします。
日時 11/25 (金) 13:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
受講料 建築士会会員3,000円
後援団体会員3,500円
一般4,000円
学生1,500円

建築士の会「東大阪」

わくわく探検(駅前シリーズ)第19弾 水の流れに思いをはせて

江戸、昭和・ヘタイムスリッパーけいはんな線
北部編～
11/26 CPD2単位(予定)

建築士の会「東大阪」では、秋のわくわく探
検(駅前シリーズ)を3年ぶりに開催します。
今回は、近鉄吉田駅を発発して、大和川付替
えに尽力した中基兵衛顕彰碑、水路の交差
点、古箕輪八幡宮を経て、盾津飛行場跡を
歩き、終点の東大阪市役所までの約5kmの
行程です。旧大和川跡で人々がどう暮らして
いったのか。また東大阪に飛行場があったと
いうロマンを感じながら生駒山を眺めてみま

せんか。

地域の人、歴史、風土、暮らしを知りそのつな
がりを感じる、建築士の原点にかえる企画と
なっています。恒例の賞品が当たるクイズも
御用意。皆様のご参加をお待ちしております。
日時 11/26 (土) 9:00～12:30
集合 近鉄けいはんな線吉田駅改札
解散 東大阪市役所
定員 30名(定員に達し次第締切)
参加費 会員・一般1,000円 学生500円

南禅寺界限至高の別荘＜対龍山 荘＞の見学 ～近代日本の建築・庭園・文化を 知る～

12/5 CPD2単位(予定)

建築・庭園の素晴らしさと共に、近年の所有
者動向が注目されるいわゆる「南禅寺界限
の別荘群。その中で普段非公開の「対龍山
荘」を特別に見学します。
数寄屋造りの最高傑作と言われる建物・美
術品などを館長に、七代目小川治兵衛の造
園スタイルを確立したとも言われる庭園を
植彌加藤造園の方にご案内いただきます。
見学会前後に紅葉の南禅寺界限の散策もお
楽しみください。
日時 12/5 (月) 14:00～16:00
会場 対龍山荘(京都市左京区)
参加費 会員4,000円 会員外5,000円
(入館拝見料を含む)
定員 30名

第17回国際海外研修旅行のご案内

ホーチミン市を訪れホーチミン市建築士会
との交流協定の締結式参加、市内の歴史的
建造物の視察、古都フエの視察にミーン
遺跡(チャンパ遺跡)をみていきます。詳細は
11月号で発表。
実施時期 2023/2/22 (水) 関空発、28 (火)
早朝帰国(現地5泊機中1泊)。

行政からのお知らせ

違反建築防止週間

期間 令和4年10月15日(土)～
令和4年10月21日(金)

国土交通省及び各特定行政庁においては、
建築基準法令違反の建築物の是正及びそ
の発生予防に努めており、その一環として、
全国一斉に「違反建築防止週間」を定めて
実施しております。人生の中で最も大きな買
い物であるマイホームに重大な欠陥があつて
は大変です。適切な工事監理が行われると
共に、建築基準法に定められた中間・完了検
査を受検し、欠陥のない適法な住宅を供給
できるよう、建築士や建設業の皆さんに大き
な期待がよせられています。

近年では、地震や風水害による被害が甚大
化しております。このような状況において、違
法な建築物の放置が大きな被害につながる
場合があり、所有者、管理者には常時適法な
状態に維持するように努めることが求めら
れています。
このような観点から、大阪府では期間中に
建築パトロールやパネル展などのPR活動を通
じて、府民の皆様に対し周知に努めており
ます。詳しい活動内容は、下記のホームペ
ージをご確認ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/kenshi_anzen/anzen_kaigi/campaign.html

違反建築防止に関するパネル展は下記の場
所・日時において開催します。お立ち寄りの
際は、是非ご覧ください。

- 1 北河内府民センタービル1階
10/3 (月)～10/14 (金)
(土曜日・日曜日は除く)
 - 2 大阪府咲洲庁舎1階
10/17 (月)～10/31 (月)
(土曜日・日曜日は除く)
 - 3 花博記念公園ハウジングガーデン
10/1 (土)～10/31 (月)
(水曜日は除く)
- 問合せ 大阪府都市整備部住宅建築局建築
指導室建築安全課
Tel.6-6941-0351 内線4326・6282

その他のお知らせ

被災建築物の応急危険度判定 (養成)講習会

10/21、12/19、2/14 CPD各3単位

地震等により被災した建築物の余震等によ
る倒壊、部材の落下等から生じる二次災害
を防止するため、被災建築物の応急危険度
判定を行う大阪府被災建築物応急危険度
判定士を養成する講習会です。
日程 10/21 (金)、12/19 (月)、2/14 (火)
時間 受付12:30～、講習13:10～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各回80～150名
(新型コロナウイルス感染状況により調整)
受講資格 大阪府内在住または在勤の一
級建築士、二級建築士、木造建
築士並びに建築基準適合判定
資格者及び特定建築物調査員

受講料 無料
テキスト代 1,600円(税込)
申込・問合せ 一般財団法人大阪建築防災セ
ンター企画耐震部
Tel.06-6942-0190

『未来型知的インフラモデル発信拠点』 ～自然災害リスク制御システムの実現に向けて～

大阪府豊能町 都市建設部長 坂田朗夫



大阪府豊能町では、令和4年度から、豊能町木代(戸知山)地区において、大阪大学と『未来型知的インフラモデル発信拠点～自然災害リスク制御システムの実現に向けて～』の実証実験をスタートしました。

本実証実験を行うきっかけとなった要因は、令和2年7月14日に発生した光風台6丁目緑地の被災でした。本緑地の擁壁は、築造してから50年近く経過しており、本町も定期的に監視している現場でした。本町では、被災のあった令和2年7月上旬から長雨が続いておりましたので、パトロールを強化しておりました。その後、擁壁の目視点検でも、擁壁が被災する兆候が表れましたので、応急の安全対策工事を行う準備を進め、応急工事に着手してから2日目の午後、再度の大雨警報時に被災しました。下記写真は、被災した当時のものです。



被災状況(豊能町光風台6丁目緑地)

この被災を機に、築造50年程度経過した擁壁を中心に総点検を行いました。擁壁内部の状態はわからない状況です。本町が所有している図面は、開発時のもので、標準断面図しかありません。既存の擁壁は、計画図面どおりに築造されているのかも不明で、実際、どれくらいの厚みを有しているのか、空洞はあるのかないのか、豪雨時、擁壁や法面の現場では、どれくらいの水分

を含んでいるのかといったことが課題として挙がりました。

そういった中、令和3年度に、大阪大学の方から、共創の場形成支援プログラム(地域共創分野・育成型)の中で、構造物に設置するセンサシステムの開発を行いたい旨の申し出がありましたので、本町木代(戸知山)地区のフィールドを活用してもらいたいと要望し、令和3年10月、大阪大学が共創の場形成支援プログラム(地域共創分野)に関して、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の審査を通過し、令和4年3月に右記写真の構造物が完成しました。また、令和4年4月6日には、大阪大学と実証実験に関する締結を行い、その後、センサ(ひずみ計、振動計など)、カメラ、雨量計、水位計などの設置が完了したので、令和4年5月より豪雨事象を対象とした実証実験を開始しています。

令和4年9月末現在、令和2年度に被災した光風台6丁目緑地の災害復旧工事は完了したので、今後の台風等の自然災害に対しては、一先ず、一安心です。

近年、100年確率に相当する雨が全国各地で記録されている状況下の中、南海トラフ巨大地震の30年以内に発生する確率が70～80%と予測されています。

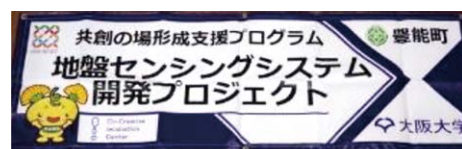
本実証実験の地盤センシングシステム開発により、自然災害リスクを制御できるシステムを構築し、その結果、住民への避難誘導をスムーズにできる体制づくりを目指していきたいと考えています。また、将来、本町の実証実験で開発したシステムが全国の地方公共団体などで活用されていくことを期待します。



工事の進捗(豊能町光風台6丁目緑地)



実証実験場(豊能町木代(戸知山))



実証実験場に掲げた垂れ幕



令和4年4月6日締結
左：塩川恒敏 豊能町長 右：関谷毅 大阪大学教授

Close-up Osaka

「野外活動センター」が「オルタナの森・Minoh」を愛称に幅広く愛される施設へ ～山裾の豊かな自然環境を生かし、多世代が親しめる場へリニューアル～

箕面市教育委員会 子ども未来創造局長 岡 裕美



記念植樹：リーダークラブやスカウト団の子どもたちと
西畠氏（そら植物園）

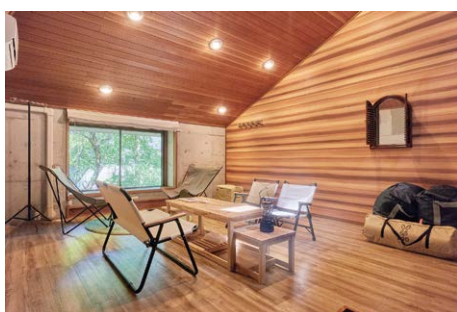
箕面市立青少年教学の森野外活動センターは、昭和55年の開館以来、その名のとおり、青少年の野外活動の拠点として、多くの箕面の子どもたちに利用されてきました。

しかし、築40年が経過し、施設の老朽化が進む中、市民ニーズの多様化に対応できずに利用率が低迷し、近年では、宿泊利用の年間稼働率が約12%にまで低下していました。

そこで、豊かな自然環境に恵まれ、交通や周辺施設の利便性も高いという好立地条件を最大限に生かし、多くの市民に活用される施設にするため、抜本的な見直しを行うことになりました。

令和3年4月より休館し、青少年の自然体験・野外活動から多世代のレクリエーションまで、広く市民ニーズに対応できるよう、民間事業者の力を最大限活かした魅力的な施設への転換を図ることとし、施設・設備の充実、サービスの向上、コスト削減に向けた取組などを盛り込んだ特定提案の提出を必須とした事業者の公募を行いました。その結果、(株)OUTDOOR LIVINGを新たな指定管理者として迎え、官民の力を合わせて、令和5年春の全面オープンをめざし、大規模なリニューアルを実施することになりました。

まず、本館などの主要部分の改修を先行して進め、令和4年7月末には、インドアキャンプ、レストラン、ルーフトップカフェなど、家族やグループでも気軽に楽しめる新たなスポットとして一部をリニューアルオープンし、利用を再開しました。



上：大阪市街の夜景を楽しめるルーフトップカフェ
下：インドアキャンプ

天体観測に使っていた屋上は、大阪市街を見渡せる眺望が自慢のルーフトップカフェに衣替えしました。

インドアキャンプでは、「屋内でキャンプをする」がコンセプト。部屋のインテリアは全てキャンプ用品でコーディネートし、小さなお子さんのいるご家庭やアウトドア初心者のかたも、豊かな自然の中を散策したり、バーベキューを楽しむなど、気軽にキャンプ気分を味わえます。

植栽にもこだわりました。施設内のあちこちに、西畠清順氏率いる「そら植物園」プロデュースによるグリーンが大胆に配されています。とりわけ、西畠氏が「選び抜いた複数の品種を」とこだわったのは、訪れる人を出迎えるプロムナードに並ぶ楓の木です。

今後は、さらに2か所のキャンプ場の改修やコワーキングスペースを新設、さらには隣接する「新稲の森」にオートキャンプ場も新たに整備し、豊かな自然の中で、アウトドア初心者からベテランまで、世代を超えて楽しめる施設として、来春にグランドオープンする予定です。

新たな愛称「オルタナの森・Minoh」は、「もう一つの」や「伝統的なものに代わる新たなもの」という意味をもつ「Alternative (オルタナティブ)」という英語からきています。「森」は、野外活動の場であることを表すとともに、長年市民に親しまれた「教学の森」の伝統を尊重し引き継ぐ意味もあります。子どもから高齢者まで、幅広い世代にご利用いただく中で、この施設が大切にしてきた“教え合い学び合う”ことの価値をさらに広げ、発展させていきたいという願いが込められています。



上：静かな森の中のロッジキャンプ 下：レストラン

こども会やボーイスカウト、ガールスカウトなどの団体が、青少年の学びや成長に資する活動の場として引き続き活用していただけること、併せて、家族やグループ、企業の研修など利用者層が広がること、その両立を果たせるよう、施設の魅力の発信などに、これからしっかり取り組み、多くの市民に愛される施設にしていきたいと考えています。

「民衆の建築」を求めていた時代に

福島県教育会館 一九五六年

文・写真 松隈 洋「京都工芸繊維大学教授」



西側から見た正面外観全景。
一九九七年六月七日撮影



二階広間から一階を見下ろす。
赤い壁の奥は大会議室。

この建物を訪れたのは、一九九七年六月、四半世紀も前のことになる。前川國男はすでに十一年前に亡くなっていったが、前川事務所で設計実務の仕事を手々と続けていた。そんな先の見えないうちで、一九九六年十月、布野修司さんの協力を得て、現所長の橋本功さんと編集者の藤原千晴さんの下で企画に携わった『建築の前後―前川國男文集』（而立書房）が没後十年の節目に出版される。その翌年、なぜか急に福島県教育会館を見たくなった。というのも、

わずか二年前の一九五四年に竣工した神奈川県立図書館・音楽堂の透明感あふれる明晰な空間との違いに戸惑いながらも、その造形に惹かれ、前川建築の中にどう位置づけたいのか、現物をこの目で確かめておきたいと思ったからだ。

飾った写真や図面など、誌面から受けた印象とは異なり、親しみやすい人間的スケールである。たしかに、延床面積約二千百㎡、七六〇席の講堂と広間と呼ばれるロビー、大小の会議室等から構成されたコンパクトな施設であり、特徴的な波打つ講堂屋根の最頂部の高さが約十五・五m、外壁を串刺しにして水平に伸びる二本の床梁までの階高も三mと三・六mに過ぎない。しかし、誌面から受けたのと同じく、どこか無骨で簡素でありながらも、その全体から細部に至るまで、密度の高いエネルギーが注がれたと感じずにはいられないような、心地良い緊張感が漂っている。

竣工当時、『新建築』の担当編集者だった平良敬一（一九二六―二〇二〇年）は、ペンネームで書き留めた文章に、次のように綴っていた。

の出現を意味しているのだろう。平良は、同じ文章で、次のような率直な感想を記していく。

「日本の伝統のなかには、福島教育会館の建物にみるような頑丈な壁の伝統がほとんど無いに等しかったといえます。（中略）しかも、この壁の表情はヨーロッパの壁のように陰鬱ではない。シェルの曲線と屏風風の壁の織りなす表情は、いたって、明るく豊かな表情を示して、とても楽天的に自然に対峙している、私にはこのように映りました。私は、一瞬みた時好きになってしまったのです。」

平良に手放しでこう唸らせた竣工時点の魅力は、四〇年の時を経て筆者が訪れた際も、そのままそこにあった。何がそう思わせるのだろうか。実は、雑誌に掲載された際、設計者は「ミッド同人」と表記され、大高正人、鬼頭梓、大沢三郎ら八名の担当者と「前川建築設計事務所」が併記されただけで、前川國男の名前はなかった。背景には、この仕事がかつとも福島県三春町出身の大高の持ち込んだものであり、当時の前川が、次第に実力をつけてきた戦後に入所した若手所員を核に、設計共同体としてのミッド同人の構想に期待をかけていた経緯があった。また、大高が独立後に、ある対談（『KITANOVISION』19号北野建設一九七〇年）の中で、神奈川県立図書館・音楽堂について、「そのモダンな素直な仕事をやってみて、あれでいいかという反省から福島が生まれてきたんだね」と語り、所内でも、「すんなりした近代主義でいいのかどうかという議論があった」と回想したように、福島造形には、ある明確な意図が込められていたのだ。当時の誌面

には、この会館が、焼失した木造の旧建物の再建を願う教職員の「健康な地方文化の砦」を求める切実な熱意と寄付に支えられ、坪六万円という厳しい予算の中で、高価な鉄骨を使わずにシェルの屋根と折板の壁の組合せで講堂を覆う工夫と、出稼ぎの大工や鳶と地元農民たちの懸命な手づくりによって、「民衆の建築」として建ち上がっていった経緯が記録されている。そして、興味深いことに、後年、詳細な報告書として出版された『建築学体系39鉄筋コンクリート造設計事例』の新訂版に寄せられた「福島教育会館の思い出」と題する前川國男の序文には、次のような言葉が記されたのである。

「近代建築がその草創の時期にえせ古典建築を否定して、裸になれといったことは正しかったと思います。しかし裸になっただけで建築が誕生すると思うことも早合点にすぎました。」

一九七〇年に、こう記した前川は、打込みタイルに覆われた堅い外壁に包まれた建築へとその作風を大きく変えつつあった。そう考えるとき、福島県教育会館は、同じ報告書に、大高が、「当時の恐るべきローコストの困難を負いながら、前川事務所の知力を注ぎ、若かったわれわれの愛情を注いで造った建物である。デザインが新しくろうと古かろうとともかく「造る」「構築する」という基本の背骨がしっかり通った建築である」と書き留めたように、一九五〇年代の時代精神を体現しているからこそ、強い存在感を今もなお発信し続けているのだと思う。あれ以来訪れてはいないが、良好な形で使われていくことを願わずにはいられない。

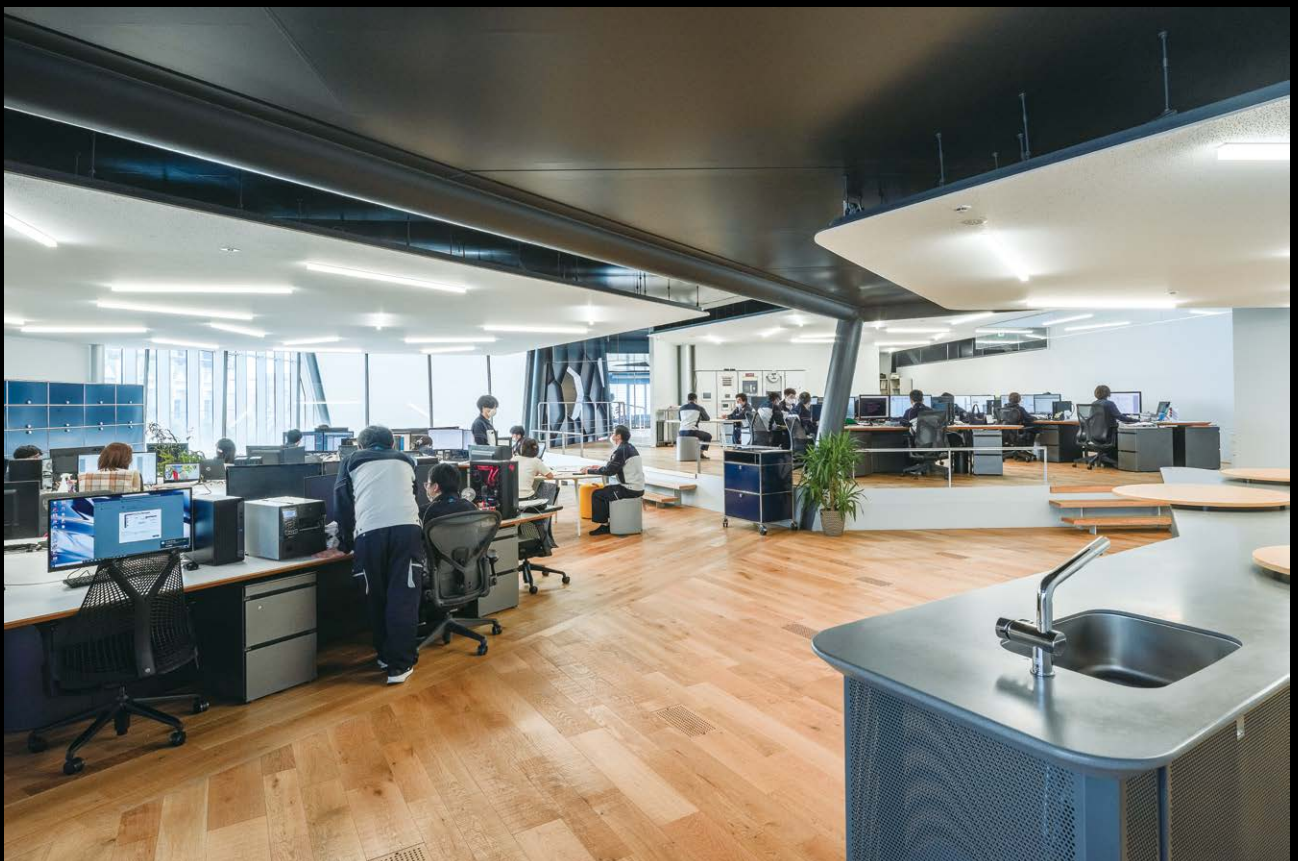
水から、ドラマチックに。



SANEI



東側外観。立体ロゴノイによる構成が現れる。



鋼製スラブが表となった2階事務所。